

特別寄稿

恥ずかしい話ですが会頭を拝命してから商工会議所の背景を知りました。古くは鎌倉時代の「座」や江戸時代の「株仲間」に由来し、中世欧州の「ギルド」に端を発する「東京商法会議所（東京商工会議所の前身）」が、渋沢栄一翁により商工業者の振興を目指し設立されたのが明治11年3月のことです。当時は不平等条約改正が政治課題で、改正発議に商工業の世論を代表する機関が必要であり政府も強力に後押しをしました。会議所という不思議な名称も、世論を代弁する役割を担う機関であることを示しています。その後各地に設立され、現在全国で514の商工会議所が活動しています。昭和35年に設立された商工会とよく混同されますが、こちらは町村単位の小規模事業施策に重点を置く機関で、特定商工業者の法定台帳管理や原産地証明などの国際的活動ができず一線を画しています。

射水商工会議所は市内新湊地区を対象として、商工業者の世論を代表し商工業の振興と地域経済の発展に寄与するため活動しています。特筆すべきは、人口280万人を擁する韓国仁川広域市の仁川商工会議所と姉妹締結していることです。比較にならない規模ですが、締結以来対等で良好な関係を維持しています。今夏、夏野市長、滝田市議会議長と共に訪問した際も、仁川広域市役所、市議会を含め大歓迎いただいたところです。また、市が姉妹都市である長野県千曲市の千曲商工会議所とも友好締結しており、白えびせんべいや蒲鉾などの特産品をしのの鉄道屋代駅の



仁川商工会議所にて（左から5番目が牧田会頭）

のアンテナショップで販売していただいています。

交流の意義はいうまでもなく人との交わり

であり、そこにコミュニケーションが生まれ、情報交換されます。そして交換された情報が時代を正しく認識する力に変わり、やがて夢を描くことになります。誰かに頼れば何とかする時代は過ぎ、自己責任、自助努力、自主判断で自らが切り開いていく創造の時代を迎えている今、夢を描くことが創造の源泉となります。夢は希望を生み、希望は勇気を育て、勇気は同志をつくります。地域経済をたくさんの同志と共に活性化することが、射水商工会議所にとって最優先の課題です。



射水商工会議所



射水商工会議所
会頭

牧田 和樹氏

富山県立大学との交流も同様で、十分な研究開発部門を持つことのできない中小企業にとって、アイデアを商品化することは大きな創造です。商品化には知識と経験が不可欠で、特に高度な専門知識となると手が出ませんし、経験においても実験を繰り返す余裕を確保することができません。この中小企業にとって越えがたい壁を富山県立大学と連携することで、一歩前に進めることができます。年一回、富山県立大学をはじめ市内にある高等教育機関との産学官交流会を開催していますが、これは非常に貴重な機会といえます。

グローバル化の進展により、大学間の国際交流も価値あることと考えます。幸い仁川広域市には「仁荷大学」という韓国大学ランクトップ10に入る工学系に強い私立大学があり、仁川商工会議所と非常に密接な繋がりを保持しています。姉妹締結の縁を活用することで、富山県立大学と仁荷大学の交流を実現させることは可能です。商工会議所の縁が行政に、そして大学に広がれば、産学官交流の新たな形が創造できることとなります。

いずれにせよ富山県立大学が頼りがいのある「おらがまちの大学」として、これからも射水商工会議所とお付き合いいただくことを切に願います。



射水産学官交流会